

NO.	事業名	委員意見	指摘事項案
1		スクールソーシャルワーカーと子どもコーディネーターとの情報共有をもっとして、どちらかで兆候が見られたら、積極的にもう一方から対応していくという方策が必要。	
2	子どものくらし支援コーディネート事業	子どもの貧困問題は、親の生活困窮と非常に密接に関係するので、生活保護制度との連携というのは、もっと図られてもいいのではないかと。連携が悪いというのは、具体的に仕組みをつくってもらえない。	【連携して支援にあたる仕組みづくりの検討】 ①きめ細かな支援の実現に向け、関連する事業・制度との情報共有や、連携して支援ができる仕組みづくりについて、引き続き検討すること。
3		児童会館との連携なのか、（他制度等との）情報連携なのかと思うが、積極的にやっていただくところなのかなと思う。	
4		意欲がある人というのは、きっかけがあれば就業を継続できる方。そうではない人は、なかなか救えていない。広い意味の貧困対策ということだと、むしろ、もっとボトムアップすることが大事。	
5	ひとり親家庭等自立支援給付事業	いろいろな制度があって、その制度を実際に活用している人たちというのは、どちらかというと気力も充実しているし、環境もいいほうの方だと思う。そこまでやる余裕がない家庭というのはあると思うので、そこをどうするかが問題。	【現状の検証を踏まえた事業の工夫について】 ②ひとり親家庭の自立支援給付事業に係る各種制度について、よりわかりやすい情報提供や、様々な機会をとらえた周知・相談の場の創出など、必要な人に必要な支援が十分に行き渡る環境の整備について、現状の検証も踏まえた上でより一層の工夫に努めること。
6		ひとり親家庭の方は、市にいろいろな制度があるということは分かっているのだろうが、どこに行けばいいのかとか、具体的なきっかけをつかむのがなかなか難しい。	

NO.	事業名	委員意見	指摘事項案
7	ひとり親家庭学習支援ボランティア事業	外形的には非常に良い取組であるが、まだまだ小規模にボランティア中心で行っている印象もある。もう一步進めるためには、見直しも必要ではないか。 次の世代の人たちに入ってもらえるためには、(事業の)どこが子どもたちにとって利点で、逆にマイナス面がどこにあるのかということは把握した方がいい。	【目指すべき姿を踏まえた事業の一層の充実について】 ③子どもの学習習慣の定着や学習意欲の向上、居場所づくりといった観点から、事業の目指すべき姿を再度確認した上で、人材確保や運営手法含め、より一層の充実を目指すこと。
8		人材の確保、それは量と質の両面だと思いますが、それについても具体的な見通しを何かしら持っていく必要があり、戦略を立てていく必要がある。	